

2009年度(第42期) 第1四半期報告

2009年6月16日

株式会社 

第1 四半期概況

2009年度 第1四半期業績概況

(單位:百万円)

	08年度 第1四半期	09年度第1四半期	
			前年差 (比率)
売上高	13,673	11,337	△2,336 17.1%
営業利益	677	△501	△1,179 %
(営業利益率)	5.0%	—	—
経常利益	730	△435	△1,165 %
(経常利益率)	5.3%	—	—
当期純利益	402	△631	△1,033 %
(当期純利益率)	2.9%	—	—

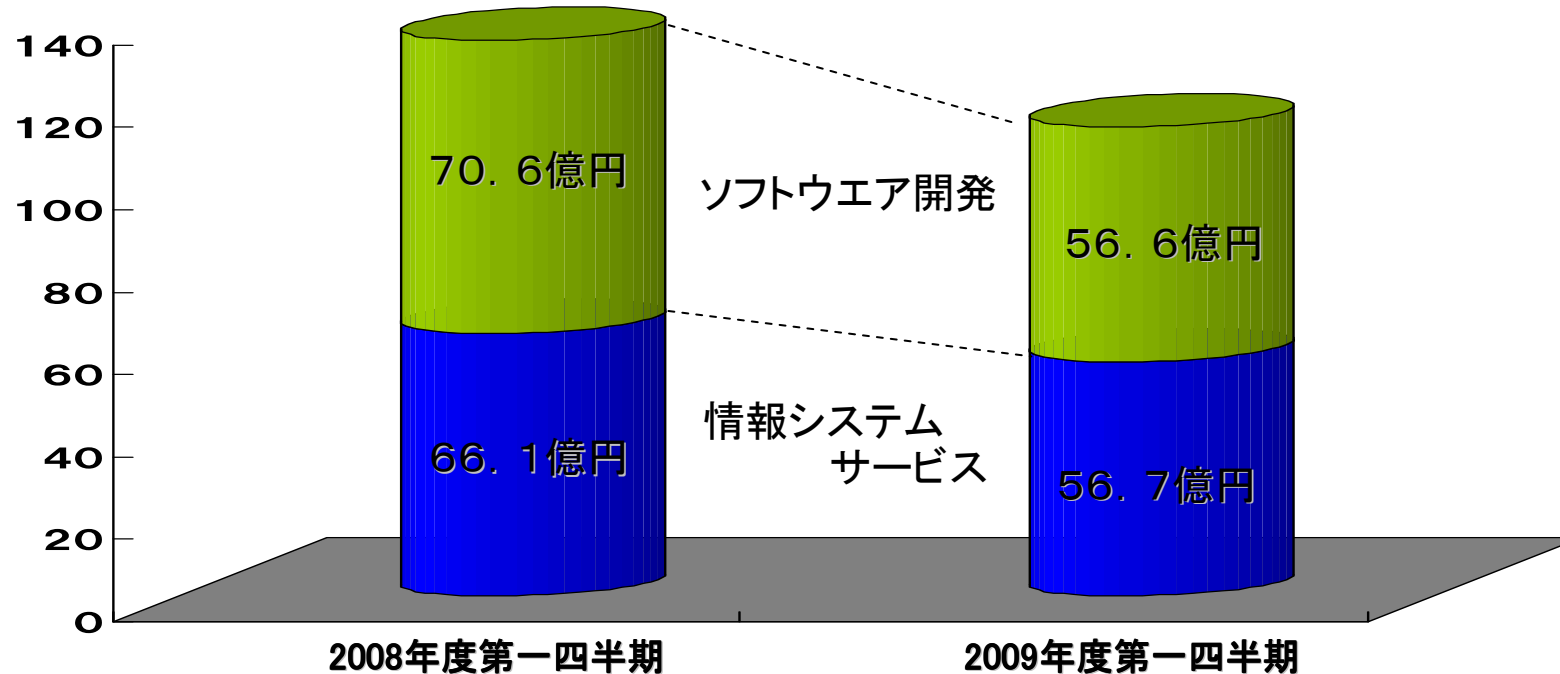
2009年 第1四半期の状況

■セグメント別売上高状況

景気悪化によるIT投資抑制の影響大(特に製造業)

◆売上高 113億37百万円(前年比17.1%、23億36百万円減)

- ソフトウェア開発事業 56億64百万円(前年比19.8%、14億円減)
- 情報システムサービス事業 56億73百万円(前年比14.2%、9.4億円減)



2009年 第1四半期の状況

■利益

- ◆景気悪化に伴う受注・売上減(特に製造業)
- ◆不採算プロジェクトの発生
- ◆内部統制に伴う子会社株式などの資産償却(特別損失)

▶営業利益	11.8億円減
・売上減少、値下げに伴う利益減	5.8億円
・不採算プロジェクトによる原価増	3.3億円
・棚卸し資産の評価減	2.6億円

▶特別損失	3.9億円
・のれん一括償却	3.3億円

2009年 第1四半期の状況

■ソフトウェア開発事業

	08年	09年
自動車	11億	9億
<ul style="list-style-type: none"> ● 3月以降、IT投資抑制が想定を超えて顕在化 ● 継続的な維持・保守案件は大きな影響なし 		
製造	15億	12億
<ul style="list-style-type: none"> ● 電機、半導体、ロボット関係が大きく低迷 		
金融	12億	10億
<ul style="list-style-type: none"> ● クレジット系が堅調 ● 保険・証券・銀行でのIT投資抑制の影響大 		
その他	33億	26億
<ul style="list-style-type: none"> ● 情報通信分野、流通・サービス分野など全般的に減 		
ソフトウェア開発事業 計	71億	57億

2009年 第1四半期の状況

■情報システムサービス事業

	08年	09年
プロフェッショナルサービス	43億	34億
<ul style="list-style-type: none">● DynamicsCRM : 堅調。国税ほか大手2社に導入● RaLC : 潜在案件は増だが、投資抑制を受け減● PROVEQ : 製造業関係が減少、他でリカバリ		
アウトソーシングサービス	17億	18億
<ul style="list-style-type: none">● 東京データセンター、神奈川第二データセンターの稼働率向上が寄与● 神奈川第二データセンター 特攻受電(66KV)敷設		
パッケージ	6億	5億
<ul style="list-style-type: none">● IT投資抑制を受けて、減収		
情報システムサービス事業 計	66億	57億

2009年 今後の見通しと施策

2009年 今後の見通しと施策

◆IT市場環境の見通し

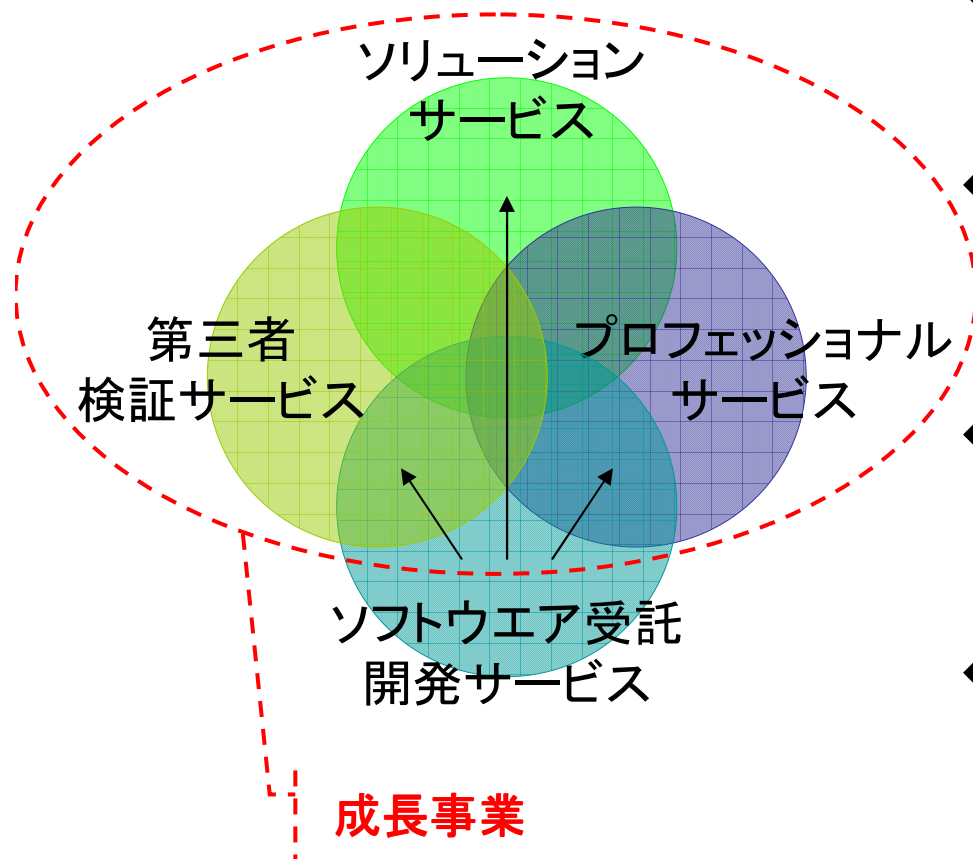
- 2009年、10年はSFA/CRMなど収益向上に結びつくソリューションに対する注目度は高い
- 製造業
 - ・ 回復の兆しがあるものの、未だ不透明
 - ・ 品質・生産性向上、コスト削減に繋がるIT投資が中心
- 金融業
 - ・ 銀行・証券は厳しいがクレジット、リースについては堅調
 - ・ システム統廃合、コスト削減、法規制対応へのIT投資が中心
- 全般
 - ・ IT投資の抑制は続くが、行わないわけではない
 - ・ 収益、リスク対応などリターンが明らか(目に見える)IT投資

◆ITベンダーにとって

- 顧客との緊密なパートナーシップが築けるかが非常に重要

2009年 今後の見通しと施策

■ 事業構造の見直し



◆ ソリューションサービス

- SI+サービス
- プロダクト+サービス

◆ プロフェッショナルサービス

- ICTインフラの企画・設計・構築・運用
- データセンターによるアウトソーシング
- 運用管理サービス(オンサイト、リモート)

◆ 第三者検証サービス

- 組込みソフトから業務・制御アプリケーションまで
- IrDAなどのインタフェース認証機関

◆ ソフトウェア受託開発サービス

- 業務・制御アプリケーション開発・維持
- 組込みソフト開発
- 当社の基礎を成す事業

2009年度 今後の見通し

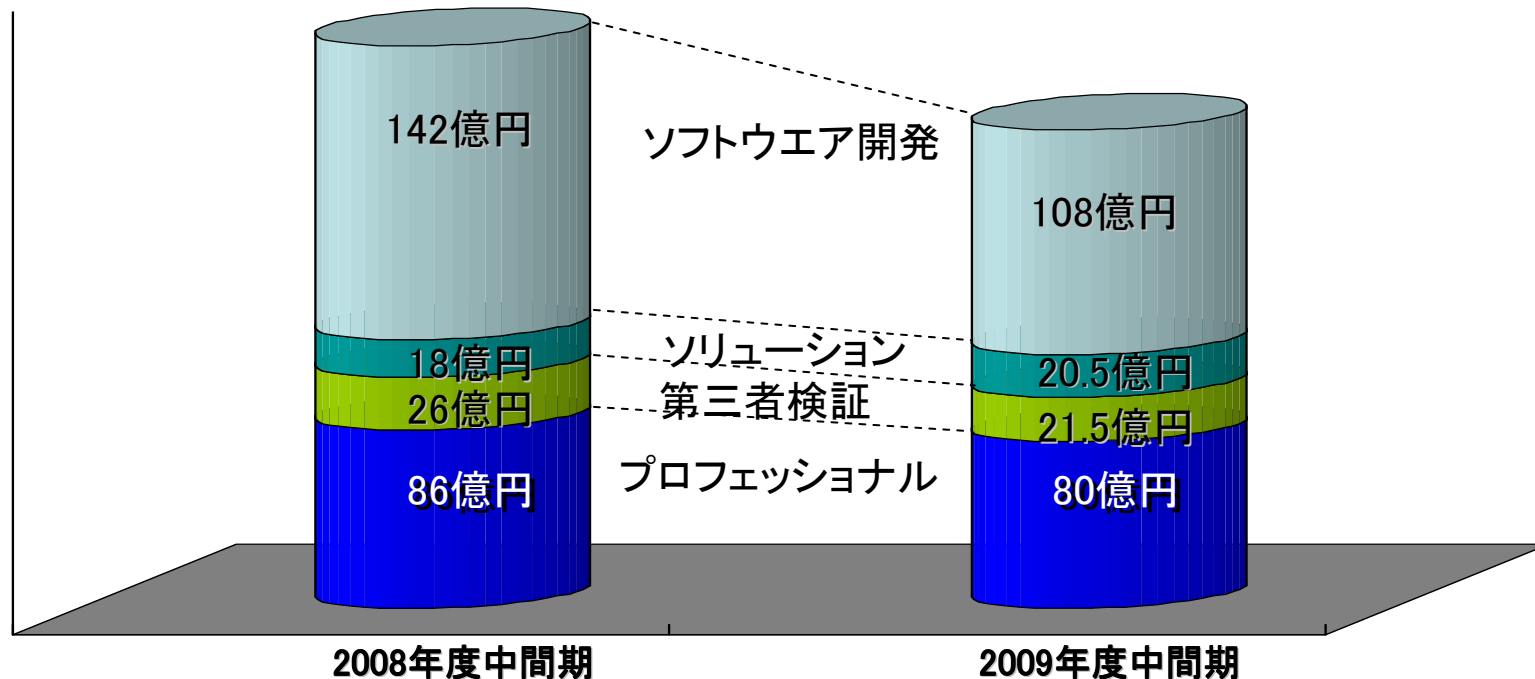
(単位:百万円)

	2009年度 第1四半期-第2四半期	2009年度 第3四半期-第4四半期	2009年度 通期
売上高	23,000	27,000	50,000
営業利益	△450	1,350	900
(営業利益率)	—	5.0%	1.8%
経常利益	△400	1,300	900
(経常利益率)	—	4.8%	1.8%
当期純利益	△650	850	200
(当期純利益率)	—	3.1%	0.4%

2009年度 中間期の見通し

■売上高 230億円 前年比 42億円(15%)減

◆ソリューションサービス事業	2.5億円(13.9%)増
◆第三者検証サービス事業	4.5億円(17.3%)減
◆プロフェッショナルサービス事業	6億円(7.0%)減
◆ソフトウェア開発事業	34億円(23.9%)減



ソリューションサービス事業

	中間期	通期
CRM/xRM <ul style="list-style-type: none"> ● DynamicsCRM : MSとの協業強化 <ul style="list-style-type: none"> ➢ CRMからxRM : 税徴収システム、教育、医療等 ● WonderWeb : CRM/SFAテンプレート化 	9億	17億
RaLC(生産・物流改革ソリューション) RaLC <ul style="list-style-type: none"> ● 生産・物流現場の見える化・効率化を提案し展開 ● 6月15日専任部隊(10名)を設置 ● 多言語化など海外展開の準備(2010年リリース予定) 	1.5億	4.5億
その他、主要なソリューション <ul style="list-style-type: none"> ● ERP : DynamicsAX、MSとの協業、日中連携 ● SecurePrint : 販売パートナーとの協業強化 製品ラインアップの充実 ● パッケージ : PitBullなどサーバー製品強化 	10億	24億
ソリューションサービス事業 計	20.5億	45.5億

130社139システム

7社10システム

267社約10,000ライセンス

第三者検証サービス事業



	中間期	通期
エンベデッドシステム	19億	38億
<ul style="list-style-type: none">● モバイルからデジタル家電、ITS、オフィスサーバー、社会インフラ関連製品への横展開● インタフェース検証(互換性検証)を拡大<ul style="list-style-type: none">➢ IrDA、Bluetoothなど		
ビジネスシステム	2.5億	9.5億
<ul style="list-style-type: none">● 業務パッケージ検証、Webシステム検証を拡大● コンピュータシステム評価サービスの強化<ul style="list-style-type: none">➢ ソースコード検証➢ パフォーマンス検証➢ セキュリティ検証➢ 運用効率検証		
第三者検証サービス事業 計	21.5億	47.5億

プロフェッショナルサービス事業

	中間期	通期
プロフェッショナルサービス <ul style="list-style-type: none"> ● PROSIS : インフラストラクチャソリューション <ul style="list-style-type: none"> ➢ サーバー、ストレージ仮想化、プライベートクラウド ● PROMSP : 運用管理業務の最適化 <ul style="list-style-type: none"> ➢ さらに、BPO、ITOを展開 	57億	123億
データセンターサービス & xaaS <ul style="list-style-type: none"> ● 東京、神奈川第二センターによるアウトソーシング ● クラウドコンピューティングへの対応 <ul style="list-style-type: none"> ➢ プライベートクラウド ➢ モバイルクラウド ➢ ユニファイドコミュニケーション ● xaaSビジネス推進 <ul style="list-style-type: none"> ➢ サイト内検索Phy Search ➢ OpusSquare CRM、Blog、Wiki、SoftDirect 	23億	51億
プロフェッショナルサービス事業 計	80億	174億

ソフトウェア受託開発事業

	中間期	通期
自動車 <ul style="list-style-type: none"> ● 基幹業務システム維持保守を堅持し、かつシェア拡大 ● 生産物流、カーエレクトロニクス分野の開拓継続 	21億	41億
製造 <ul style="list-style-type: none"> ● 製造業向けソリューション(VR+R)による新規顧客・案件開拓 ● 自動車との連携強化 	22億	48億
金融 <ul style="list-style-type: none"> ● クレジット・リース関連および法規制対応案件に注力 	20億	45億
その他 <ul style="list-style-type: none"> ● 情報通信分野に注力 	45億	99億
ソフトウェア受託開発事業 計	108億	233億

その他重要な施策

◆グループ経営の強化

- 各子会社ミッションの再定義と体制整備

◆生産性・品質向上

- 分業の推進による生産性・収益力向上

◆アライアンス強化

- コニカミノルタビズコム (KMBCJ)
 - ・ コニカミノルタ殿の顧客に対してITサービス販売を強化
- RaLC、SecurePrintなどの販社の開拓ならびに連携強化

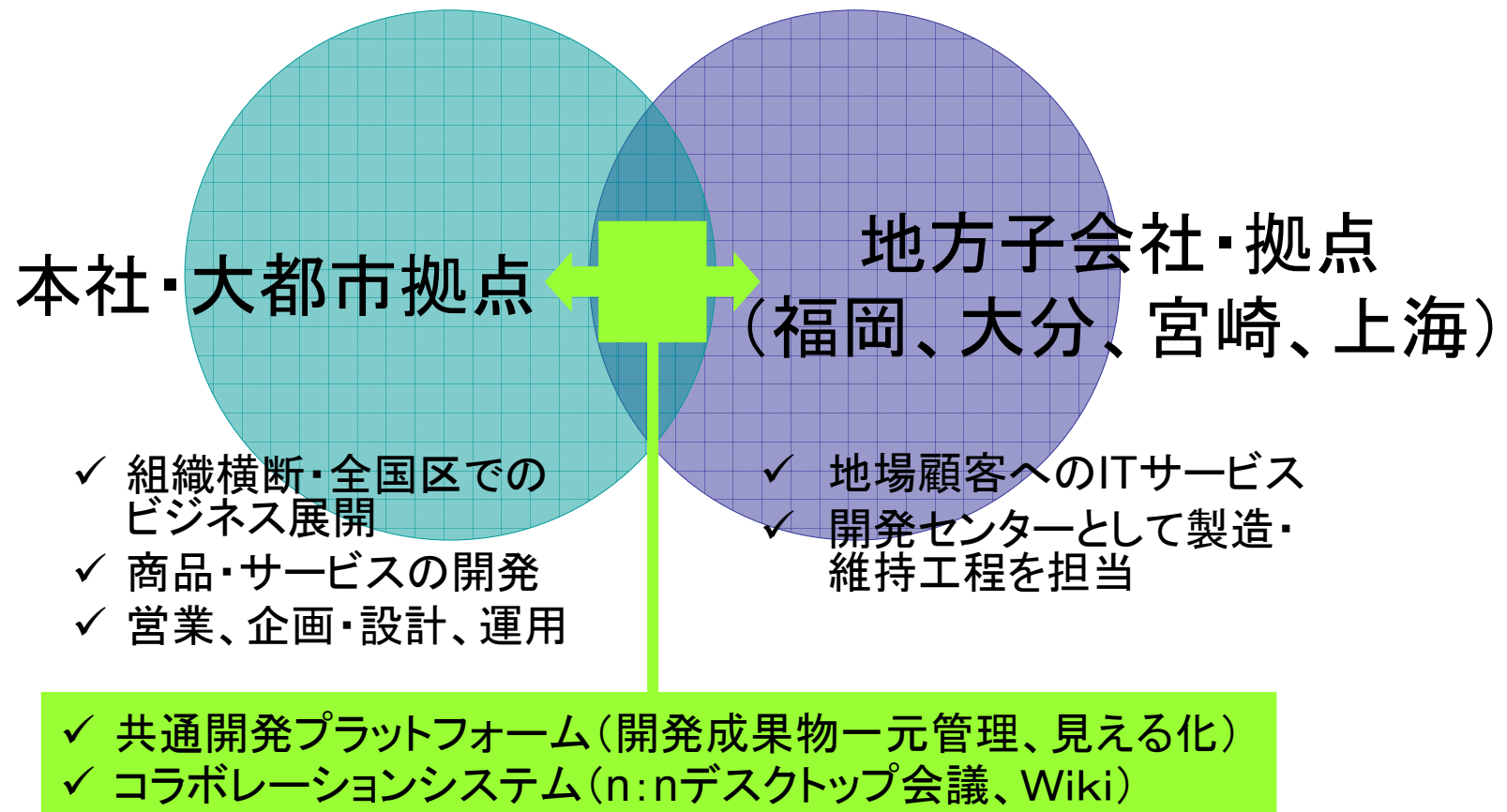
◆販管費削減

- オフィス集約によるコスト削減

その他重要な施策

分業体制

昨年より一部実施済み:約200人月程度
製造工程において一人月当たり20%~50%コスト低減(当社比)
今後、400人月まで増加。大都市圏の拠点では、営業活動、上流工程に注力。





〔お問合せ先〕

株式会社シーイーシー

経理部 IR担当	046-252-4111
事業推進部広報室	03-5789-2442

- 本資料は、投資を勧誘する事を目的として作成されたものではありません。
- また、本資料に記載しております将来の業績に関する見通しは、日本経済や情報サービス産業の動向、その他現時点で入手可能な情報による判断及び仮定により、算出しております。従いまして、予想に内在する不確定要因や今後の事業運営における内外の状況変化等により、変動する可能性がある事をご承知おきください。